

『県内初・地域おこし協力隊 延長へ』

|| 地域おこし協力隊 活動報告 ||

たかお新聞

5月号

2026.5.25

[制作]

鬼石総合支所
地域おこし
協力隊

草だらけの実家の畑をなんとかしなければ——。そう覚悟を決め、長年勤めた会社を飛び出し、家族も置いて、たどり着いたのが、上州・鬼石でした。
地域おこし協力隊任期は原則三年。

当時の鬼石では、減る人口、増える空き家という大きな課題を抱えていました。

「まずは任務を全うしよう」

空き家を訪ね、地域の方に相談し、神楽を習い、畑を耕し、SNSで鬼石の魅力を発信したり。気づけば、たくさんの人々の優しさに包まれて活動を続けてきました。

おかげで、地域の望んでいる空き家の紹介制度「おにしん家」が誕生しました。

「空き家をどうにかしたい」

「鬼石で暮らしてみたい」

そんな点と点を、一つずつ結ぶ仕事に携わって「あっと」という間の3年間でした。

そして今回、地域に定住し、起業へ挑戦する隊員を対象にした、最大二年間活動を延長できる新たな国の制度を活用し、延長申請を行いました。県内初の採用となる見込みです。

いよいよ。着任時の使命を果たす時が来ました。

「荒れていく畑」

「眠ったままの農機具」

「人が去り、途絶える街」

やっぱ、故郷をなんとか救いたい。

私は、この鬼石から神流川を下る流域に、「農」と「暮らし」と「人のつながり」を、もう一度「信頼」で結ぶ世界を作りたいと思っています。

不毛の地に恵を生む『運命のほし農』計画』では、休耕地の再生、耕作代行、シェア畑、農業体験の宿、農具リサイクル、自然栽培支援などを通じ、地域づくりに挑戦します。

協力隊任期が延びることは、ゴールではありません。むしろ、ここからが本当のスタートです。鬼石を起点に、移住・定住の支援に励み、相互に循環しながら、神流川周辺へ地域おこしの風を吹かせたい。その思いからNPO法人「ほし農」を創設します。

引き続きご支援ご愛顧賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

・編集後記・

三年という時は、長いようで短い。けれども、ここでドラマティックに出会った方々とのご縁は、これからも永遠に続いていくのだと思います。

鬼石で蒔いた種が、次の世代へつながる果実となれば幸いです。

『ふるさとの 眼下に伸びる 神流川 利根の岸まで もう少しかな』

【編集担当】 星野 貴男